冠婚葬祭総合情報誌
全日本ニュース
発行：株式会社フォトサービス
TEL.03-5980-0290

※本誌に掲載している情報は、一部インターネットなどに掲載されている文献をもとに編集しておりますので、地域・風習等により異なる場合がございます。

700年の歴史を守っていく職人たちの共同工房「タケフナイフビレッジ」

指物、飾り金具、漆塗りの技術が融合「越前箪笥」

由緒正しい社寺が建ち並ぶ「寺町通り」

現在は京都にお住まいの飯田様からいただいたお便りには、こんなお手紙が入っていました。

先日全日本ニュースを手に取った時に「ふるさと紹介」のふうあちゃんのお手紙が目に入り（前号）、読ませていただきました。私の好きな北海道の景色がすぐ目の前に浮かんでくるように書かれており、とても感心いたしました。私も早や九十一歳を迎えようとしています。小学三年生のふうあちゃんに負けないよう、私の生まれ育った故郷を書いてみようと決心しました。（抜粋）

そして越前市武生の思い出が綴られていました。

皆さん、ご存じですか、福井県越前市武生（たけふ）と云う町を。

自慢する程の町ではないかも知れませんが、私にとっては生まれ育った故郷なのです。

でも、有名な歴史の町でもあります。その故郷を皆様に知って頂きたくペンをとりました。

武生の町は昔から越前打刃物、越前箪笥など、もの作りで有名な町なのです。

私の生家のお隣りは鍛冶屋さんで、朝早くからトッテンカン、トッテンカンと刃物を打つ音とフゥー、フゥーとふいごの音を聞きながら大きくなりました。越前打刃物には毎日の生活に必要な包丁や鎌、若い方達にはペーパーナイフなどもあり、七百年の伝統の技は、今や欧米諸国からも高く評価されているようです。

そして、私たちの生活に欠かせない家具、越前箪笥も忘れてはなりません。幕末から明治初期に指物職人さんが集まり、現在「タンス町通り」と呼ばれる街並みが出来たそうです。

武生と隣町であった今立地区は越前和紙が有名な地域です。越前和紙は千五百年前、村里に紙漉きの技を伝えた川上御前の伝説から始まり、大滝、岩本、不老（おいず）、新在家、定友の五つの地区が歴史と規模を誇る和紙産地として「今立五箇（いまだてごか）」と呼ばれ、栄えてきました。

色々お伝えしましたが史料を調べてみて、私も初めて知ったことがありました。絵本画家で有名ないわさきちひろさんは武生で生まれた方だったのです。絵だけではなく文才にも秀でた方で「ちひろの生まれた家」記念館には絵本が沢山備えられていて、楽しみながら穏やかなひと時が過ごせそうです。

私も若かりし頃ちひろさんのファンで、長野県の「安曇野ちひろ美術館」を訪れたことが、今、思い出されます。今まで武生がいわさきちひろさんの生誕地だとは露知りませんでした。私のふるさと自慢がひとつ増えました。

他にも自慢できるグルメがありました。亡き父がお気に入りだった「越前おろしそば」です。一六〇一年府中（現越前市）城主として本多富正公が赴任した際、伴われて来た蕎麦師によって、辛味大根のおろしを添えた食べ方が広まったと、言われているようです。

是非、お時間がありましたら、昔ながらの伝統ある町、工芸品のあふれる町を訪ねてみて下さい。キット幸せな何かにめぐり逢えると思います。

飯田様、素敵なお手紙ありがとうございます。お電話でお話しさせていただいた時も、かくしゃくとされて活発なお声に正直驚かされました。いつまでもお元気でお過ごしください。今回は越前市の観光協会さんに和紙漉きや越前箪笥、「ちひろの生まれた家」記念館や「紙」の神様を祀る岡太神社・大瀧神社の写真などをお借りしました。お手数をおかけしました。ありがとうございます。

そして、越前市に行って参りました。由緒正しいお寺や寺院が集まっている寺町通り、どこか懐かしい風情を漂わせるタンス町通りと、落ち着いた街並みに癒されました。越前打刃物の共同工房「タケフナイフビレッジ」では作業中の職人さんを撮影させていただきました。昼食は「越前そばの里」で名物のおろしそばとソースカツ丼のセット。とても美味しかったです！そして「猫寺」と呼ばれる御誕生寺で猫と触れ合って帰ってまいりました。

今回のふるさとも大変素晴らしいところでした。皆様のふるさと自慢もお聞かせください。お便りをお待ち申し上げております。

御誕生寺で出会った猫

岡太神社・大瀧神社

タンス町通り

御誕生寺

「ちひろの生まれた家」記念館

「越前そばの里」でおろしそばとソースカツ丼のセット

昔ながらの紙漉き工程を再現する「越前和紙の里 卯立の工芸館」

あなたのふるさとを皆様に紹介してみませんか？

皆様の故郷や第二の故郷の、おいしい食べ物・素敵な場所・歴史などをお聞かせください。ちょっとした些細な事でもあなたの思い出深い事なら大歓迎です。ぜひこの機会に多くの人に知ってもらい、あなたの素敵を皆様に分けていただけませんか?採用させていただいた方には謝礼として15,000円をお送りさせていただきます。次号の作成都合上、11月30日までにご応募の方から選考させていただきます。
右記の住所に1200文字くらいを目安に文章にしていただき、お名前・ご住所・電話番号を記載の上郵便などでお送り下さいませ。次号（全国版）第一面に掲載させていただきます。なお著作権を侵害するような物は使用できませんので、あらかじめご理解の上ご応募下さい。

応募先
〒170-0004東京都豊島区北大塚2-3-16 2F
株式会社フォトサービス　全日本ニュース係宛

ワクワク読書三昧 vol.10

旬のオモシロイ×ためになる本のご紹介、第10弾。
通勤途中や、家事の合間にお楽しみください。

「記憶力日本一」を獲得し続ける著者が考案！飛躍的に記憶力をアップさせるオリジナルドリル！

記憶力を奪う元凶は「つまらない」だった！

「近ごろもの忘れが多くて、少し心配」「お客さまの顔と名前がなかなか覚えられない」または「資格試験の必須用語を暗記しないといけない」など、いろいろな場面で「もっと記憶力があったら」と感じたことがあるかもしれません。そんな人も、若いころはどんどん覚えることができたのではないでしょうか。

じつは記憶力をアップさせるヒントは子ども時代にあります。自分自身が子どものころのことや、あなたのお子さんのことを思い出してみてください。子どもは乗りものの種類やゲームのキャラクター名など、びっくりするぐらいたくさんのことを一瞬で覚えてしまいますよね。なぜたくさんのことを覚えられるかというと、ずばり「興味があるから」です。興味があるものにはワクワクしながら接しますね。こうした感情は、脳に大きなインパクトを残します。それが記憶の入り口である「海馬」の扉を開き、強く記憶に刻み込むのです。つまり脳にインパクトを与えて記憶に残りやすくすれば、簡単に覚えられるということです。しかし大人になると、覚えたいものはワクワクするものばかりではありません。でもご安心ください。この本では子どもの覚え方と同じように、脳にインパクトを与えて自然に記憶力をアップさせる方法をご紹介します。その方法とは、ものごとに対する見方を変えるだけ。それだけで、気づいたときには記憶できるようになっているのです。（省略）

効果アップのコツは集中して解こうとする意識

この本の特長は記憶テクニックが身につくことではなく、楽しみながら進めるうちに、気づいたら記憶できるようになること。ですからうまくできなくても悲観する必要はありません。たしかに完璧にできるに越したことはありませんが、それよりも、集中してドリルを解こうとすることに意味があります。制限時間はないので疲れたら答えを見たり、正解するまでの時間を計ったりと集中力維持の工夫をするのもいいでしょう。リラックスしながら、でも集中して取り組んでください。

ドリルは各章に12問ずつ、合計60問用意しました。最初から順番通りに進めても、興味のある章から始めてもかまいません。どちらの場合も、章ごとに行うのがおすすめです。単純計算で1日2問ずつ進めると約1か月、4問ずつで約2週間、集中して10問ずつ進めると約1週間で完了します。これはあくまで目安ですから、ご自分のペースで進めて問題ありません。行う時間帯も自由ですが、頭がよく働く「起きてから午前10時まで」「午後4時から夕食前まで」の時間を使うのもいいでしょう。とにかく大切なのは楽しみながら進めることです。

「序章 記憶力の秘密」より（一部省略・行替え等変更）

「2019年度 記憶力日本選手権大会」優勝者、池田義博氏による一冊。記憶力をよくするカギは「ひらめき」。ドリルに取り組むうちにひらめきを得る意識「ひらめきセンサー」が身につけば、自然に記憶力がアップ！「今さら記憶力って上がるの？」と半信半疑の方もぜひ試してみては。

『見るだけで勝手に記憶力がよくなるドリル』
池田 義博／著
出版社／サンマーク出版
定価／ 1,300円（税別）

プレゼントのコーナー
「ワクワク読書三昧 vol.10」に掲載いたしました本を抽選で各１名様にプレゼントいたします。応募方法はおハガキにお名前・ご住所・電話番号・希望の本の名前を記載の上、右記の住所までお送り下さい。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

応募先：
〒170-0004 東京都豊島区北大塚 2-3-16 2F
株式会社フォトサービス「ワクワク読書三昧」係宛

こだぬきポンポコの これなんだポコ？「スイカでハワイに行ける？ポコ！」の巻

作／つきのしずく
絵／恋林あやこ

スイカジュースのつくり方

材料
（約３人分）
●スイカ（大玉約 1/8）
●塩やはちみつ（少々）